

新規陽性者の発生動向

(1) 大阪府の発生動向

- 4月13日に**過去最多となる1,099名**を記録し、現時点では**感染の鈍化傾向**があまり見られない。
- 各年代の**新規陽性者数移動平均**も増加し続けており、鈍化傾向が見られないことから、**当面、感染は拡大又は収束に転じたとしても、極めて緩やかな収束になるものと考えられる。**
- 3月中旬より、**大学生を中心に学生の陽性者が増加し、春休み終了後も一定規模で発生。**新学期が始まり、今後さらに増加の恐れがある。
感染経路としては、**家庭内感染以外の濃厚接触者や感染経路不明の割合が増加。**
- 現状の感染拡大状況をふまえると、直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数が
 - ・25人（ステージⅣ）を下回る日は、5月下旬
 - ・15人（ステージⅢ）を下回る日は、5月末から6月上旬 になる見込みであり、**感染収束に長期間を要する。**

(2) 市内・市外居住者の発生動向（週・人口10万人あたり）

- 週・人口10万人あたり新規陽性者数も、**全年代で市内外居住者ともに急増し続けている。**
- **感染経路不明者の割合については依然6割を超過したままであり、市内外ともに市中感染が拡大し続けている。**

(3) 夜の街関連等の発生動向

- **新規陽性者に占める夜の街の関係者及び滞在者の割合は直近10日間でやや減少しているが、実数としては3月下旬から4月上旬並み。**
滞在分類としては、**居酒屋・飲食店が依然多く、滞在エリアとしては、市外はやや減少しているが、市内は時短要請継続にもかかわらず、増加傾向（推計値に基づく）。**

(4) 変異株の状況

- **変異株PCR検査実施率は、直近1週間で20.9%、陽性率は82.8%。**

感染状況と医療提供体制の状況について

医療提供体制の状況

- 急激な感染拡大（変異株の影響の可能性もあり）により、**重症者数は約170名増加に要した日数は、第四波は24日間と極めて短期間であり、第三波の約3か月の3倍以上。**
現在、
 - ・最大確保病床（重症：224床）の早期運用
 - ・確保病床を上回る臨時増床
 - ・対応できる人材や設備が整っている軽症中等症患者受入医療機関等において、重症化した場合の治療継続
 - ・一般医療の一部制限（不急の予定入院・手術の延期、救急患者受入体制の重点化等）による病床確保など病床確保を図っているが、重症者数の急増に医療提供体制の確保ペースが追い付かず、**重症医療の危機に陥っている。**
- また、今後、療養者数が1万人を超えて発生すれば、**自宅療養者数が急増し、重症化時の救急搬送体制に大きな課題を抱える恐れ。**

今後の対応方針について

- **重症病床についてはひっ迫という状況を超え、ほぼ満床状態となり、重症医療の危機に陥っている。**
今後、療養者数の急増が見込まれ、**軽症中等症病床も極めてひっ迫する恐れがある。**
新型コロナウイルス感染症患者だけではなく、一般医療にも制限が生じていることから、**大阪府の医療提供体制は限界を超えると想定される。**
そのため、自宅療養が原則となる可能性も高まっている。
- 現状の感染拡大状況をふまえると、分科会指標ステージⅢ基準を下回るのは5月末から6月上旬となる可能性があり、**感染収束に長期間を要する。**
- 以上のことから、今後、緊急事態宣言発令の要請も視野に入れながら、以下対応を緊急で行うことで、感染拡大を食い止めることが必要。
 - ① **府民に対する不要不急の外出・移動自粛の徹底**
 - ② **事業者・自治体におけるテレワークの徹底**
 - ③ **教育現場における部活動・サークル活動等の制限や感染リスクの高い教育活動自粛、大学等でのオンライン授業の推進**